

# tdiグループDX戦略

2022年10月3日  
情報技術開発株式会社

# トップメッセージ tdiのDX推進について

tdiグループは、独立系IT企業として1968年の創業以来、ソフトウェア開発、システム運用、組み込みソフト開発、データセンターサービス等、多彩なサービスを提供してまいりました。社会環境の急速な変化に伴い、近年では、業務やサービスへの一部分的なIT導入にとどまらず、ビジネスモデルや組織、働き方、プロセスそのものをデジタル技術の活用によって変革するDX（デジタルトランスフォーメーション）が社会全体で必要とされています。

私たちは、『情報技術で未来を創造』の企業理念に基づき、ITベンダーとしてこれまで以上に高品質なサービスのご提供を続けていくとともに、

「当社がフォーカスするソリューションのご提供によるお客様のDX推進支援」  
「DXを実現するための社内の環境整備と技術活用および人材育成」

を果たすべき課題の柱と認識し、更なる取り組みを進めてまいります。

社外に向けたDX推進支援においては、お客様のDX推進に不可欠なパートナーとなるべく、技術力・サービス力・提案力・営業力の向上を目指し、当社ならではのソリューションサービスメニューをDXの手段・目的に応じて提供し、サービス品質の向上に取り組んでまいります。

当社内のDX推進においては、経営環境・生活様式の変化に対応する、新たなワークスタイル確立のため、社内システムおよびシステム開発基盤の整備や、DXに係る人材育成を進めております。

これからも私たちは、お客様の業務を深く理解し、技術力の研鑽に励むことで、一層のサービス価値向上を図り、社会の発展やお客様の経営課題の解決への更なる貢献を目指してまいります。

引き続きご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

情報技術開発株式会社  
代表取締役会長 安永 登  
代表取締役社長 三好 一郎

tdiグループでは以下の企業理念とバリューに基づき、情報技術の活用によるお客様へのサービスの提供と社会への貢献活動を展開してまいります。

## ◆企業理念

情報技術で未来を創造

人にやさしく心あたかな企業に

社会に親しまれ貢献する企業に

## ◆tdiグループバリュー

### 1.顧客志向

社会人としての品格と礼節を保ち、お客様の問題解決のために、あらゆる選択肢の中から最適な解決策を提示し、ビジネスの成功を共に目指す。

### 2.技術

プロフェッショナルとして恥ずかしくない高い水準の技術にこだわり、常に最新の専門知識やスキルを維持・向上するための努力を惜しまない。

### 3.成果

高い目標を掲げ、ゴール（目標）に近づくためのプロセスを粘り強く着実にこなし、困難や障害があってもあきらめず乗り越え、最終的に成果を出す。

### 4.チャレンジ

注意力・観察力でリスクヘッジをしたうえで、失敗を恐れずリスクをとり、過去の成功や慣習にとらわれずに積極的に新しいことにチャレンジする。

### 5.チームワーク

会社や所属する組織のために、チーム意識を常に持ち、他者尊重・他者支援を進んで実践し、最終的にチームとして価値を生み出す。

## ●DXの考え方

tdiグループでは、“デジタル技術の活用による「顧客体験」の向上と「価値創造」の実現”をDXと定義し、社外のお客様に対する当社が注力するソリューションの提供、およびグループ社内における活用推進を2つの柱として、「t-DX（tdiグループならではのDX推進活動）」として取り組んでまいります。

### t-DX

#### 顧客体験の向上

- ユーザーインターフェースの改善
- アプリケーションの作成
- システム基盤等のITインフラ構築



#### 価値創造の実現

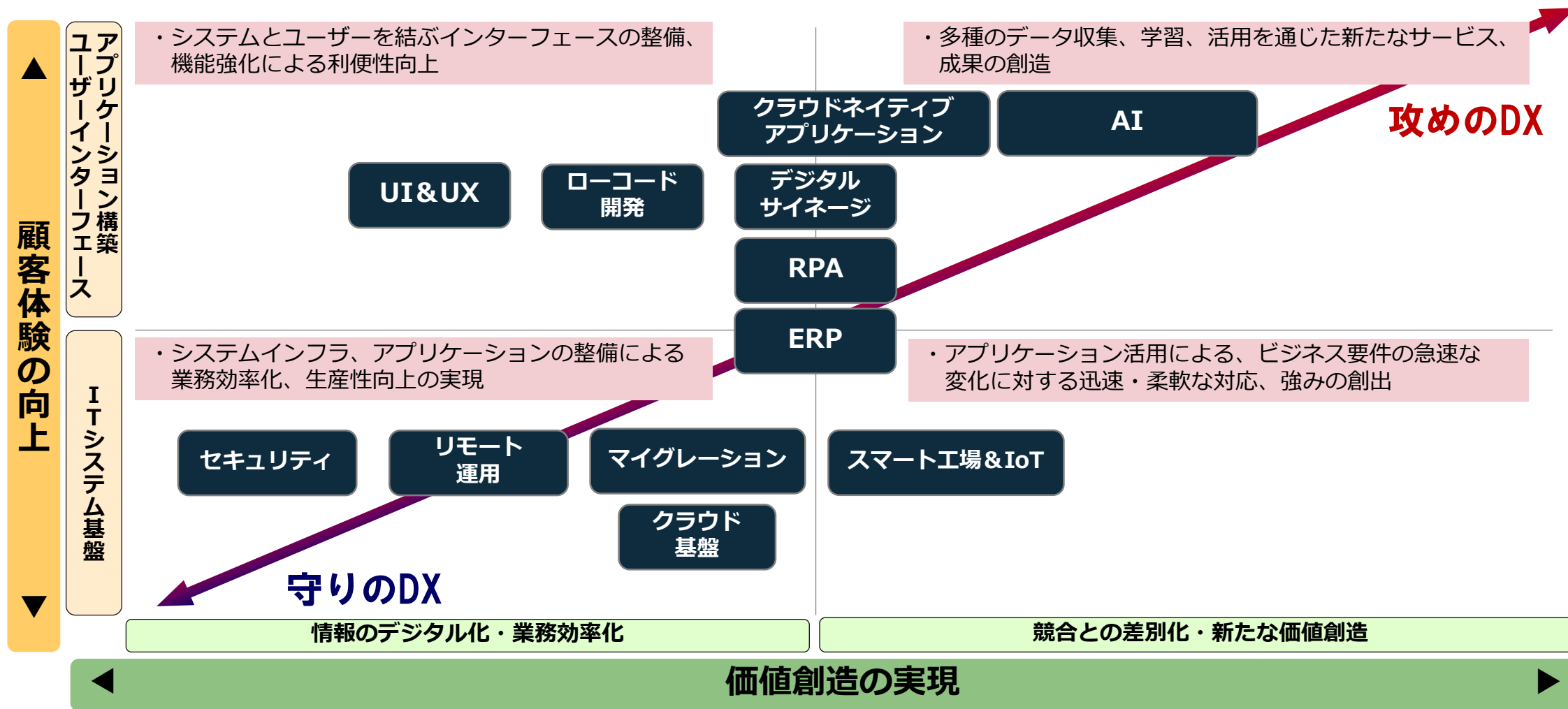
- 情報のデジタル化、業務効率化
- データ活用による新たな価値の創造

**社外：当社ソリューションのご提供**

**社内：環境整備、技術活用、人財育成の推進**

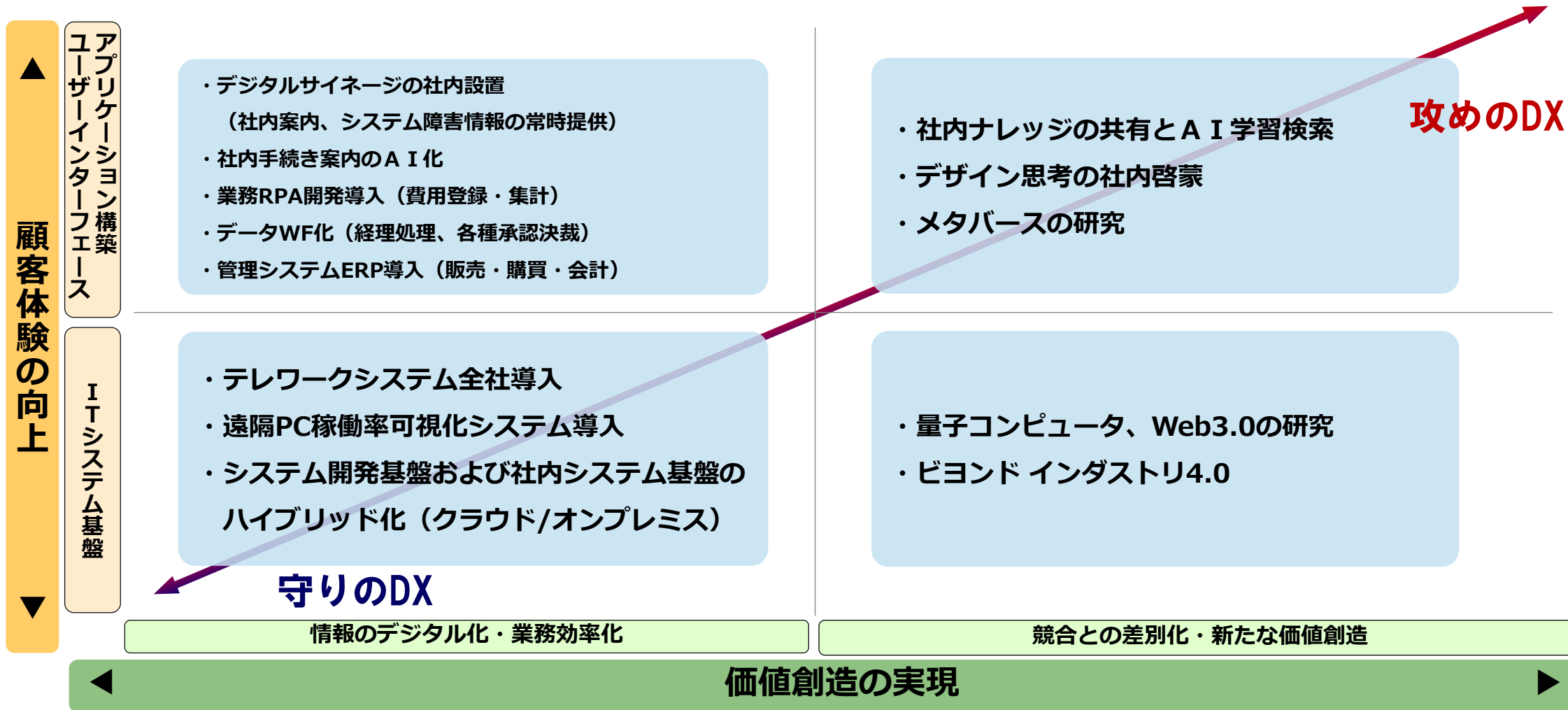
# 社外向け「t-DX」の提供

目的・手段別に整理した当社独自のソリューションメニューを組み合わせ、お客様の業種業態・ご状況に応じて“攻めのDX”から“守りのDX”まで幅広くご提供します。



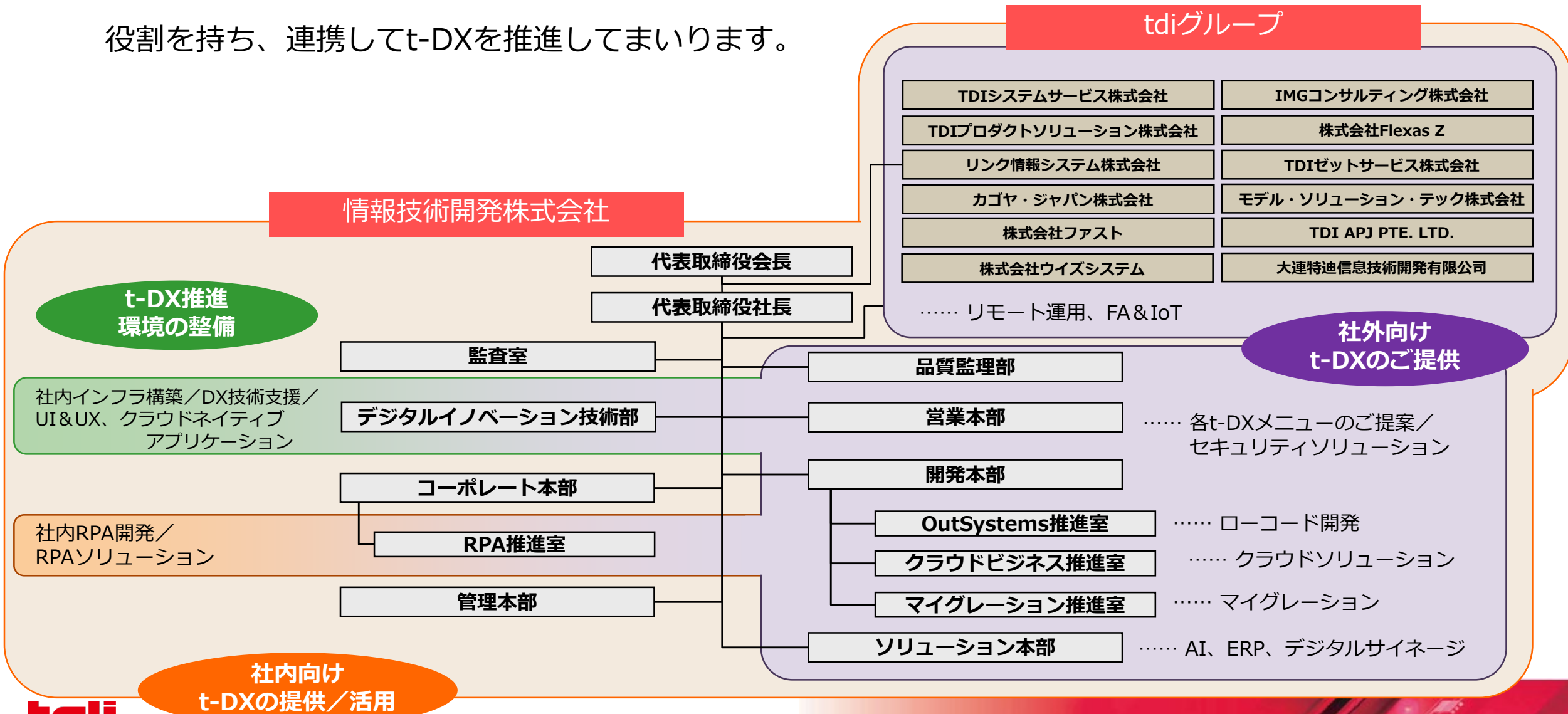
# 社内向け「t-DX」の推進

デジタル化による経営環境・生活様式の変化に対応する新たなワークスタイル確立のため、テレワーク導入、RPAによる業務自動化などを始めとした各種の社内DXに取り組んでおります。



# 「t-DX」推進体制

情報技術開発株式会社を中心に、各社・各部署が役割を持ち、連携してt-DXを推進してまいります。



# 「t-DX」推進に向けての環境整備

社内環境および人材育成における現状の課題を特定し、解決のための取り組みを進めております。

項目	現在の課題	解決のための取り組み
インフラ	<ul style="list-style-type: none"><li>従来の仮想化基盤の柔軟性の低さに起因するリソース活用の偏り</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>クラウド基盤との連携強化とクラウド上のデジタルテクノロジーの活用によるインフラ整備</li><li>柔軟性の高いシステム基盤の実現による顧客への迅速かつ適切なサービス提供</li></ul>
セキュリティ	<ul style="list-style-type: none"><li>多様化するシステム開発や働き方改革に伴う環境変化への対応</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>脅威インテリジェンスや深層学習の活用による、多様化するセキュリティリスクへの対応力強化</li></ul>
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"><li>社内外のステークホルダーとのコミュニケーション方法の多様化に伴う運用変化への対応</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>クラウド型グループウェアの更なる活用</li><li>会議室へのオンライン会議システム導入</li><li>複数サービス併用によるサービス障害対策</li></ul>
人材育成	<ul style="list-style-type: none"><li>DX技術者の育成（クラウドネイティブアプリケーション、量子コンピュータ、ブロックチェーン等）</li><li>DX推進担当者の育成</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>先端技術の有効活用を可能とする技術者の育成</li><li>社内システムのDX化、DX化に必要な工程や要件を意識したPJ推進を行う担当者の育成</li></ul>



## ● 「t-DX」戦略達成KPI

「t-DX」戦略達成の指標として、各関連項目のKPIを設定しております。

項目	指標	達成目標
社外向け	t-DX関連ソリューション売上高	<ul style="list-style-type: none"><li>2022年度：9,400百万円</li><li>2023年度：9,800百万円</li><li>2024年度：11,200百万円</li></ul>
	システム開発基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"><li>クラウド開発基盤整備によるクラウド開発技術力向上</li><li>ハイブリッドクラウド環境整備による社内システムでのクラウドサービス利活用</li></ul>
社内向け	DX人材育成	<ul style="list-style-type: none"><li>ローコード開発／アジャイル開発 ⇒OutSystems認定資格取得者：500名（2023年中）</li><li>クラウドネイティブ人材 ⇒社内クラウドネイティブ開発人材育成：30名/年</li></ul>
	デザイン思考・社内アイデアソンの推進	<ul style="list-style-type: none"><li>デザイン思考社内セミナー実施：50名/年</li><li>社内アイデアソン実践：3件/年</li></ul>
	社内RPA開発プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"><li>導入件数：3件/年（2020年度より毎年継続、実績：15件）</li></ul>